

冬季オリンピック・パラリンピック

大規模市民ワークショップ

2030年大会招致に向けた
札幌市の取組について

令和元年9月8日（日）
9月12日（木）

1. 1972札幌オリンピックとその後

1. 1972札幌オリンピックとその後

■ シティブランドの構築

- アジア初となる冬季オリンピックを開催した都市
- 当時の雪まつりの様子が海外のテレビ番組で放送



オリンピック後も
国内外から多くの
観光客が訪れる
きっかけに



写真/公式報告書より

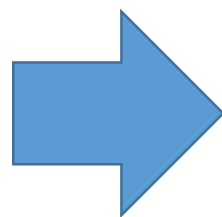


雪まつりの様子

1. 1972札幌オリンピックとその後

■ 交通インフラの整備

- 地下鉄の整備
- 空港の整備
- 道路の整備



今もなお
市民の生活を
支えている



写真/公式報告書より



写真/公式報告書より

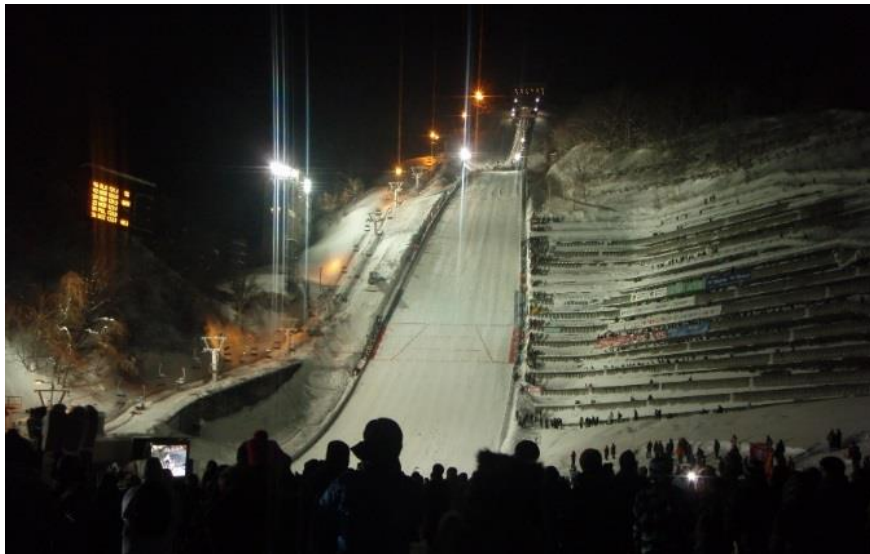
1. 1972札幌オリンピックとその後

■ 競技施設の整備

- 大倉山ジャンプ競技場
- 真駒内公園屋内/屋外競技場
- 月寒体育館 など



競技施設としてだけでなく、様々な場面で利用されている



大倉山ジャンプ競技場



月寒体育館

1. 1972札幌オリンピックとその後

➤ 1972年に開催されたオリンピックは、
一過性のイベントで終わったのではなく、有形無形の遺産(レガシー)を50年近く経った今でも残している

ウィンタースポーツ
に親しむ文化

ウィンタースポーツ
シティとしてのブランド

競技施設

交通インフラ

2. 何故オリンピック・パラリンピックを 招致するのか

2. 何故オリンピック・パラリンピックを招致するのか

オリンピック・パラリンピックが持つ本来の意義

オリンピズム

スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する



『オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することである。』

『スポーツを通じて世界は一つになる。』

「近代オリンピックの父」

ピエール・ド・クーベルタン

2. 何故オリンピック・パラリンピックを招致するのか

パラリンピックの4つの価値

勇気

強い意志

インスピレーション

公平



『失ったものを数えるな。
残されたものを最大限に生かせ。』

『手術よりスポーツを』

「障がい者スポーツの父」
ルードヴィッヒ・グットマン

2. 何故オリンピック・パラリンピックを招致するのか

オリンピック・パラリンピックの開催を通して

未来を担う札幌の子ども達に夢や希望を与える

世界とつながる

フェアプレーの精神

トップアスリートへの憧れ



世界に目を向ける
きっかけ

異文化理解の促進

夢の実現に向けた
努力

東京2020大会の事例



- パラスポーツの普及
2015年以降、パラスポーツの普及イベントに約10万5千人が来場

■ たばこの無いオリンピック

受動喫煙対策の実施

選手や大会関係者だけでなく、
観客も敷地内では喫煙できない



東京2020大会の事例



■ 都市の再開発

選手村や競技施設周辺を含む
さまざまなエリアで再開発が進
んでいる

■ 新たなテクノロジーの開発

自動運転技術、生体認証シス
テムなど、新たなテクノロジー
の実証実験



⇒さまざまな分野でまちが変わっている

2. 何故オリンピック・パラリンピックを招致するのか

全ての人に優しいまちづくりのために...



スポーツを通じた健康づくりにつなげられないか？

新幹線の延伸を活用できないか？



3. 計画策定の現状

3. 計画策定の現状

■ IOC(国際オリンピック委員会)について

開催経費の膨張

立候補都市の減少

住民投票での反対多数による撤退

大会後の負の遺産

オリンピック・パラリンピック招致に対する
IOCの考え方が変化してきている

3. 計画策定の現状

■ IOCが重視する観点①

◆ オリンピック・アジェンダ2020【2014.11】

ニュー・ノーム

◆ New Norm(新たな規範)【2018.2】

まちづくりとの連動	開催地のまちづくり計画の実現を加速させるような開催計画
戦略的なレガシー	将来を見据えた有形無形の長期的な利益を創出する計画
コスト削減	無駄のない柔軟な計画(既存施設の最大限の活用など)

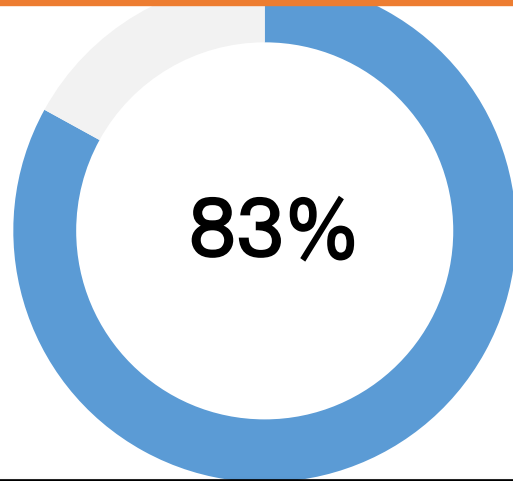
- 
- ・ まちづくりとの連動や、レガシーをより意識した計画
 - ・ よりコストを抑えた計画

3. 計画策定の現状

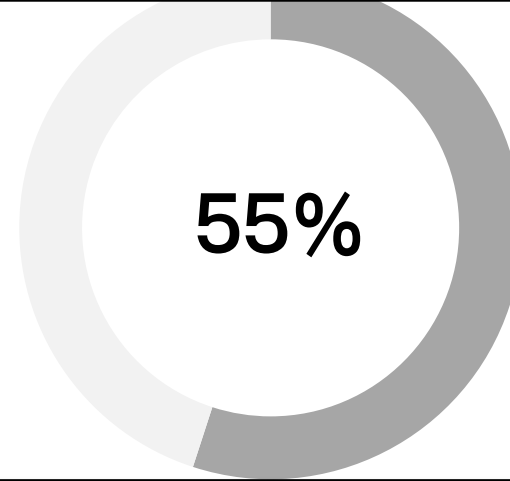
■ IOCが重視する観点②

2026大会立候補都市の住民支持率

ミラノ・コルティナダンペッツォ



ストックホルム・オーレ



IOCも住民支持が得られているかを重視する傾向

『市民との対話』を重ね、冬季オリンピック・パラリンピックに対する懸念や期待を把握しながらともに計画をつくりあげ、より広く市民の共感を得ることが必要であると再度認識

3. 計画策定の現状

■ 大会基本理念

札幌らしい持続可能なオリンピック・
パラリンピックモデルの提案

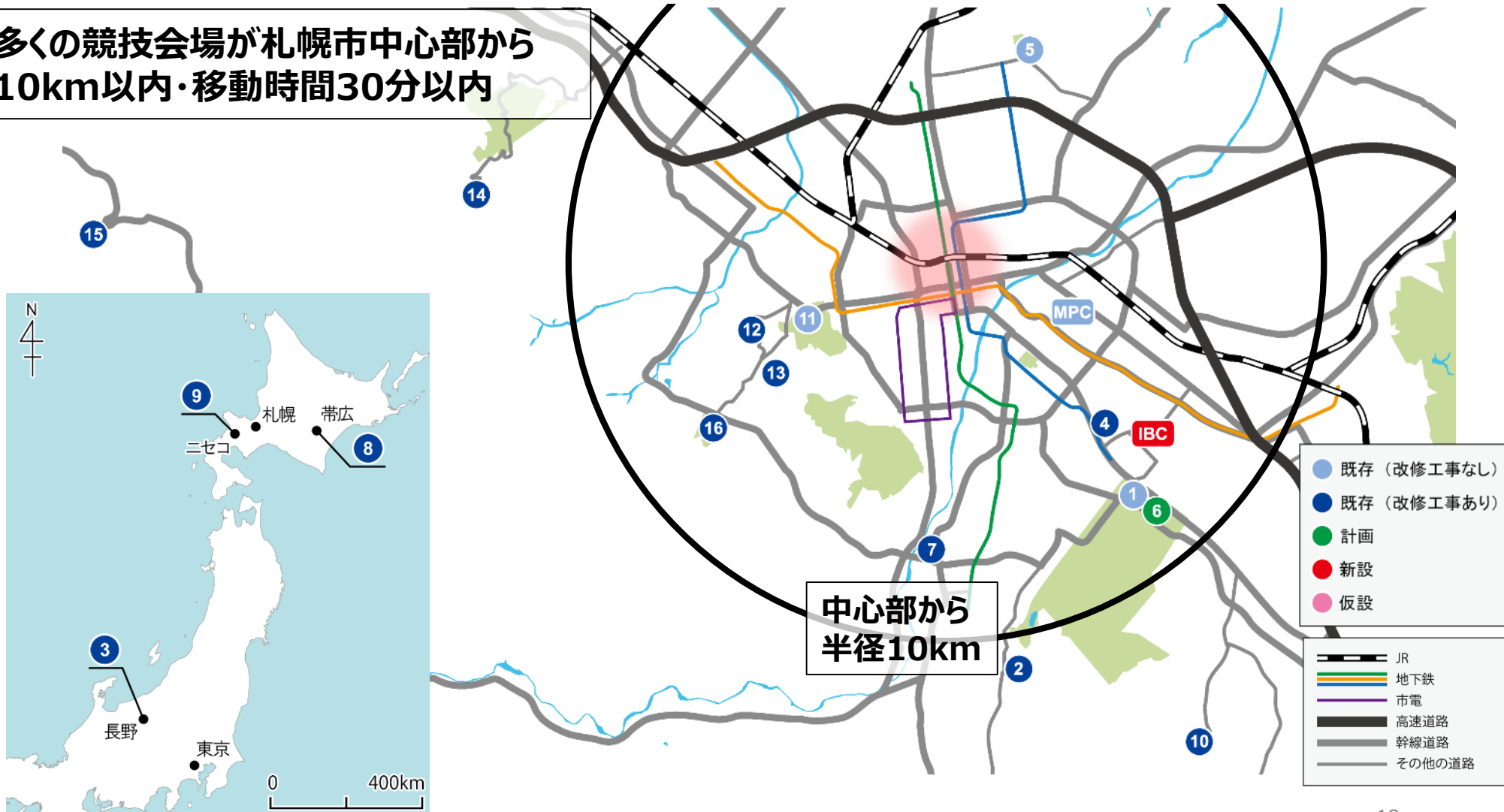
～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

- 1972年のレガシーの活用
- 雪を楽しむ文化を次世代へつなげていく
- パラリンピックを契機にすべての人に優しいまちへ
- 次世代に過度な負担を残さない
- 環境に配慮した持続可能な大会

3. 計画策定の現状

■ 施設配置計画【会場MAP】

多くの競技会場が札幌市中心部から
10km以内・移動時間30分以内



3. 計画策定の現状

■ 施設配置計画【会場MAP】

1	札幌ドーム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 開会式／閉会式 ▲ 開会式／閉会式 	10	白旗山競技場	<ul style="list-style-type: none"> ■ クロスカントリー
2	西岡バイアスロン競技場	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイアスロン ▲ バイアスロン ▲ クロスカントリー 	11	円山総合運動場	<ul style="list-style-type: none"> ■ ノルディック複合 ■ クロスカントリー
3	長野市ボブスレー・リュージュパーク「スパイラル」	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボブスレー／スケルトン ■ リュージュ 	12	大倉山ジャンプ競技場	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジャンプ(ラージヒル)
4	月寒体育館 ※1	<ul style="list-style-type: none"> ■ カーリング ▲ 車いすカーリング 	13	宮の森ジャンプ競技場	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジャンプ(ノーマルヒル) ※2
5	スポーツ交流施設 コミュニティドーム つどーむ	<ul style="list-style-type: none"> ■ アイスホッケー1 ▲ パラアイスホッケー 	14	サッポロティネ スキー場	
6	新月寒体育館 ※1	<ul style="list-style-type: none"> ■ アイスホッケー2 	15	札幌国際スキー場	<ul style="list-style-type: none"> ■ フリースタイル／スノーボード ▲ スノーボード
7	真駒内公園屋内競技場	<ul style="list-style-type: none"> ■ フィギュアスケート ■ ショートトラック 	16	さっぽろばんけい スキー場	
8	帯広の森 スピードスケート場	<ul style="list-style-type: none"> ■ スピードスケート 	MPC	札幌コンベンション センター	メインプレスセンター
9	ニセコ	<ul style="list-style-type: none"> ■ アルペン ▲ アルペン 	IBC	共進会場跡地	国際放送センター

■ オリンピック競技

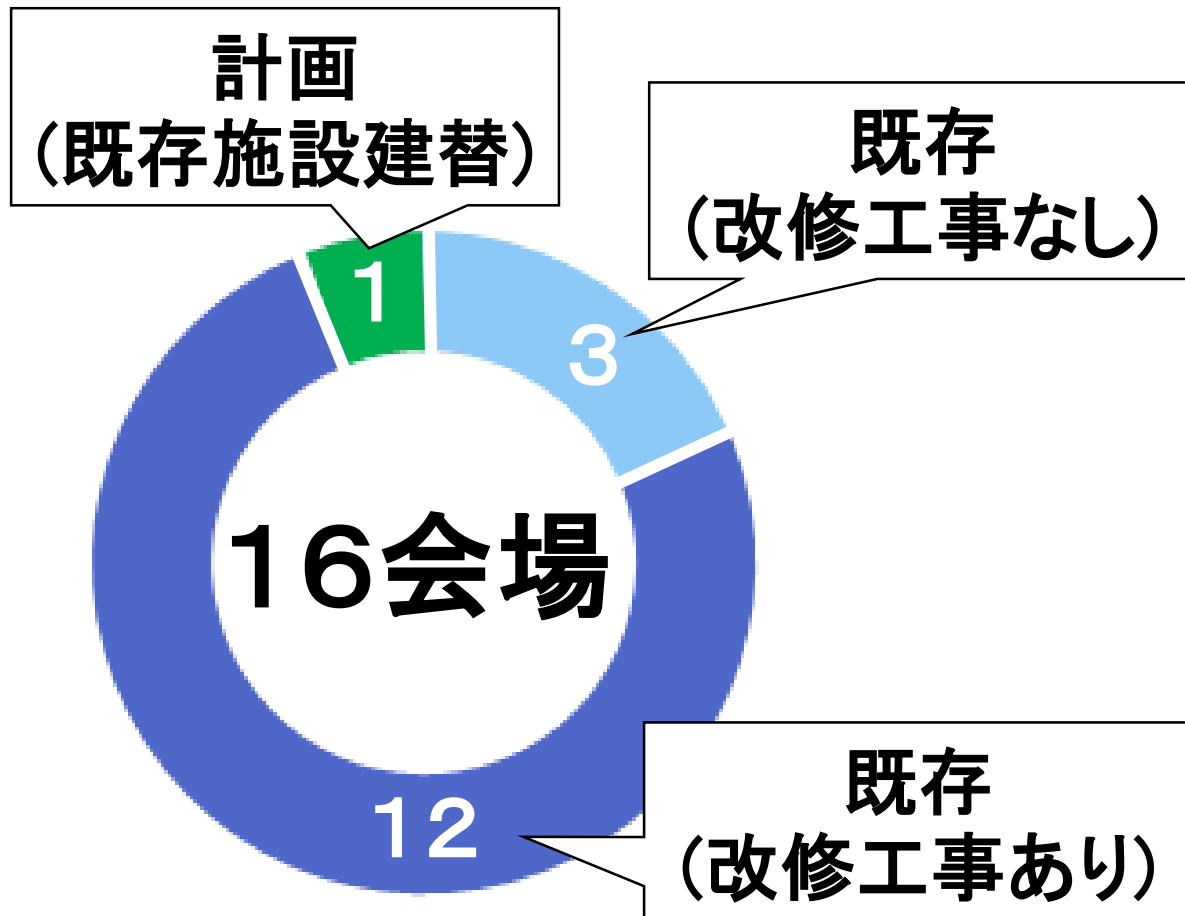
▲ パラリンピック競技

※1…新月寒体育館は月寒体育館の後継施設として別地で建替え、大会時には新旧両方の施設を利用

※2…大倉山ジャンプ競技場への併設も検討。なお、選手村は2030年に向けた地域のまちづくりと連動した整備や、既存ホテルや仮設施設の活用など市内で2～3の分村を検討

3. 計画策定の現状

■ 施設配置計画



新設の
競技会場

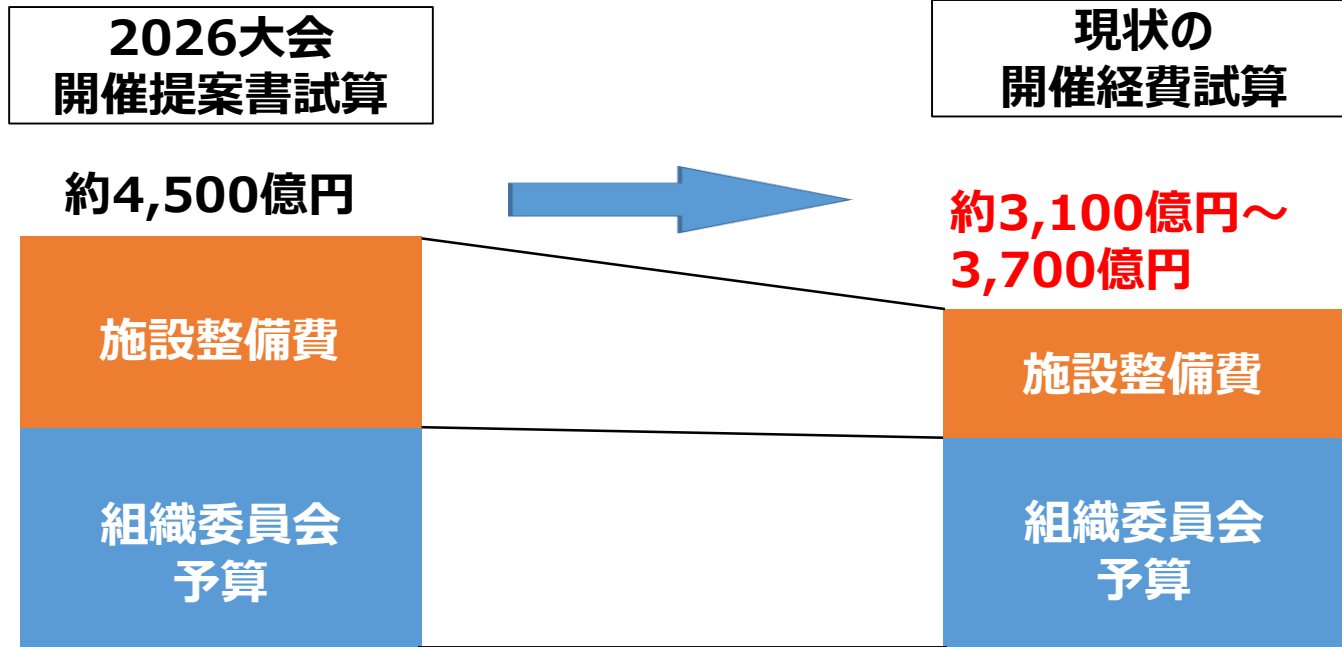
0会場

既存の競技会場

93.8%

3. 計画策定の現状

■ 開催経費の考え方



開催経費が膨れ上がることへの批判に対してIOCが危機感

無駄なコストをかけない財政計画の推奨

- 観客席基準の撤廃
- 選手村の分村の容認

3. 計画策定の現状

■ 組織委員会予算

考え方

オリンピック・パラリンピックの開催にかかる、競技の運営費などの一時的な費用は、国内のスポンサー収入などで全額を賄う

支出
2,300億円

収入
2,300億円

※札幌市の負担は「0」

- 収入に見合った大会運営により、収支の均衡を図っていく

3. 計画策定の現状

■ 施設整備費

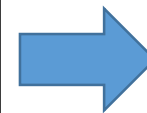
考え方

既存施設を最大限活用し、大会開催に向けた新たな競技会場はつukらない

施設整備費 総額	800～1,400億円
うち、札幌市負担額	400～600億円

札幌市の負担額はどんな費用？

- オリンピック・パラリンピックの有無に関わらず行う老朽化した施設の建替
- 競技会場をオリンピック・パラリンピックの競技に利用できるように改修



将来にわたって
国際大会などで
活用

※ 札幌市が整備した施設をその後40年間活用したとすると…
市民一人当たり年間で約530円～800円分に相当

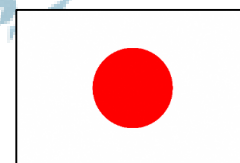
補足資料：海外情勢

2030招致に関心がある都市（※報道ベース）

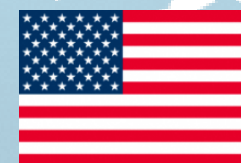
ノルウェー・
リレハンメル
1994年大会開催



スペイン・
バルセロナ
冬季大会開催実績なし



日本・札幌
1972年大会開催

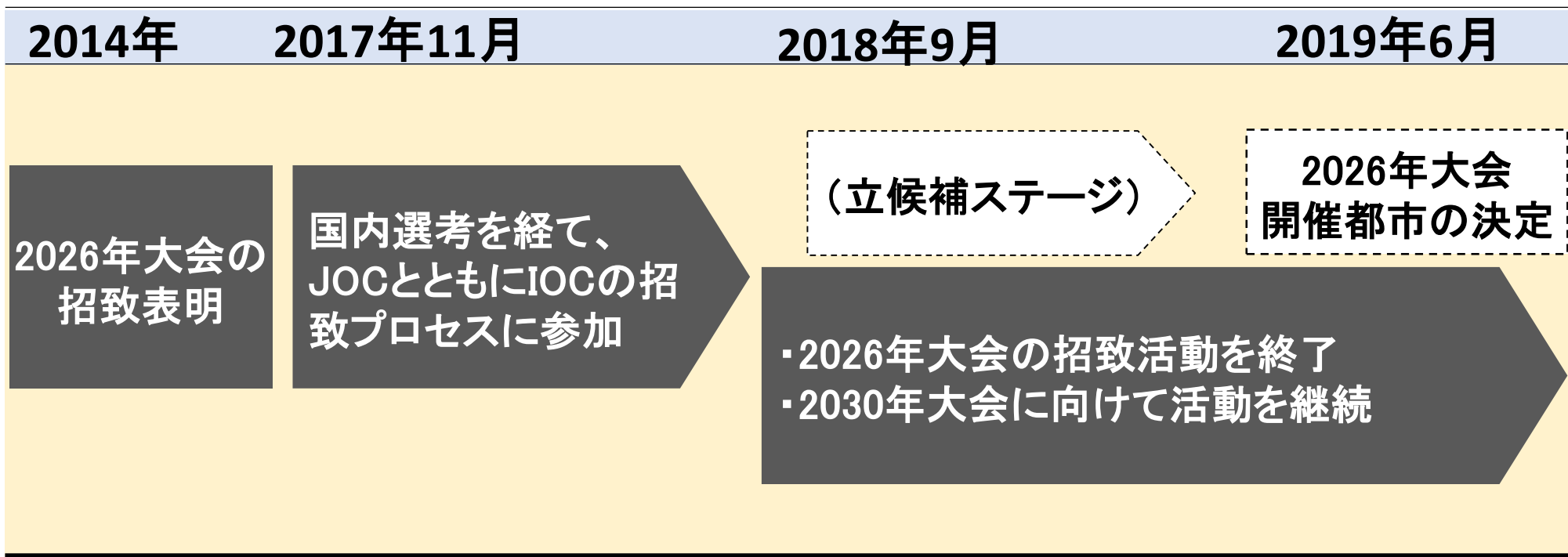


アメリカ・
ソルトレイクシティ
2002年大会開催

◆ 既に決定している開催地

- ・2020年(夏季)・・・東京(日本)
- ・2022年(冬季)・・・北京(中国)
- ・2024年(夏季)・・・パリ(フランス)
- ・2026年(冬季)・・・ミラノ・コルティナ
(イタリア)
- ・2028年(夏季)・・・ロサンゼルス(アメリカ)

補足資料：招致スケジュール



- ◆2030年大会の招致プロセスはまだ示されていない
- ◆今後の招致プロセスは従来から大きく変更される可能性あり
- ◆正式立候補の前には市民アンケートを実施